

ナールは煉瓦石と云ふものを用ふ。
七、テーブル

能力毎二十四時間に付一—五噸

尚選鑛場にて現在の取扱ひ量は半噸より一噸位なり。購入當時の價格

クラツシヤー	七・八七	チューブミル	七・三一
ボールミル	一〇・一〇	テーブル五基	九・六六
分鑛器四基	二〇・一六	沈 澱 槽	七・八八

◎大戦争に於ける鐵及び鋼鐵業

(The Iron & Steel Trade During the War. By M. S. Birkett.)

M A 生

(1) 英 本 國

一、戦前に於ける地位

戦前大英國は世界の鐵及び鋼鐵の生産に於て其首位たるの地位を失ひて第三位を占め米國及び獨逸が各第一、第二の地位を占めたるは遍く世人の知る處なり。西歷一八七一年より一八七五年に至る五ヶ間に於て合衆國の一割八分逸乙の一割五分に對し英國が世界の銑鐵生産高の五割二分を供給せる以來其生産割合漸く減じ一九〇一年より一九〇五年の五ヶ年間には合衆國の四割五分五厘獨逸の二割三分二厘に比し二割一分八厘となるに至れり、尙同期間に於て一

九一三年までは英國は全産額の一割四分を供給せるに過ぎずして合衆國は四割、獨逸は二割五分を産せり。

抑も英國銑鐵生産額の殆んど半は其鐵鑛を輸入に仰げる

ものにして之れ全く港灣に隣接して炭坑區の存在せるがために可能たりしなり。例令英國は或種の鐵製品に於て從來の首位を失ひたりとは言へ、(例へばレールの輸出に於て一八八四年には全世界の産額七割二分を占めたるに一九一三年は三割二分に減じたる如き) 然も一般鐵及び鋼鐵に就ては尙殆んど全世界の最大輸出國と云ふを得たり、即ち一九一三年の統計は英國の五百〇四萬九千噸、獨逸の五百六十六萬四千噸、合衆國の二百七十四萬六千噸を示せり。他の工業と同じく鐵及び鋼の工業も一九一三年は實に好景氣の絶項にして銑鐵の産額は一千二十六萬噸なる未曾有の記録的數字に達し鋼鐵、インゴット及び鑄鐵の産出高七百六十六萬四千噸に及べり、此後者の數字は前年一九一二年度の産額を超過すること實に八十六萬七千噸なり、然も一九一二年の産額は其後軍需省の鋼鐵生産局の政策に依り著しき増加を見たりとは言へ、既往に於ける最大生産たりしなり、同時に價格も亦上値にて一二の例に就て見るもクリーブランド銑鐵の公價平均、噸、參磅となり、一九〇〇年に於ける噸、參磅八志一片以來の最高レコードなり、鋼板も同じく一九〇〇年の七磅十九志以來の最高値にて七磅二志七片なりき、斯くて鐵、鋼材及び是等製品の輸出も五百〇四萬九

千噸てふ記録的數字に達せり。然れども同年末に至り好景氣の時代漸く去り比較的不況の時代に移らんとする形跡を見たり當時 *The Iron & Coal Trade Review* は一九一四年の形勢を豫想して曰く「次年度に於ける貿易の趨勢は恐らく商勢盛なるも價格低下すと見て近からん」と、此豫想は先づ正確なりしと云ふべく同年の始めより銑鐵の製造業者は其生産を制限して警戒を爲せり、而して内地の需要減退し獨乙との競争を感ずること漸く痛切となり、價格又低下してクリーブランド銑鐵第三號は五十一志二片に下り、鋼板は六磅七志十片となるに至れり。

二、大戰の突發

戰爭の突發に際して上述衰退の傾向一時格段に現はれたり、何となれば獨乙の競争は驅逐せられたれども大輸出は甚しく阻害せられ内地の商賣亦不安となりたればなり、何人も戰爭が斯く永續するを信じたる者無く從つて鋼鐵の製造者と雖も當時に於て戰爭の最後の結果が如何に鋼鐵の產出に憑ることの大なりしかを認めざりしは言を俟たず。同年の秋期に至り政府及び同盟國より大注文漸く現はれ内地の商勢亦急に進み外國貿易も英國海軍の活動効を奏して漸次改まるに至れり。同年末に至りては船腹の不足より引いて造船材料の注文續々發せられたために工場は著しく多忙を極めたるのみならず多數の職工が陸軍に召集せられし爲め勞力の不足を感ずるに至り遂には政府に對し鋼鐵工場よ

り此上徴兵を爲すに於ては軍需品の供給に支障を生ずべき旨を陳述するに至れり。

最も困難なる問題は砲彈用鋼鐵なりき、戰前にありては此種鋼鐵に經驗あるもの僅か六會社に過ぎずして其仕様書も寧ろ嚴格に過ぎたり。鋼鐵局は早くより砲彈の各直徑に對する種々の型を統一し其各印號に對して標準重量を規定せんと著手したり、而して砲彈の需要と之に伴ふ鋼鐵の需要増加するに連れ仕様書も自然嚴重の度を緩むるの必要を生ぜり。斯くて戰前より砲彈用鋼鐵の製造を熟知せる製造家は其經驗を他の製造家に提供し六會社に過ぎざりし此種製造者の數六拾を算するに至り其製造高亦左表を見る如き増加をなせり。

一週間平均製造噸數

一九一五年	十月—十二月	二〇、三〇〇
一九一六年	一月—三月	二八、五〇〇
同	四月—六月	三四、五〇〇
同	七月—九月	三四、〇〇〇
同	十月—十二月	三五、四〇〇
一九一七年	一月—三月	三五、六〇〇
同	四月—六月	三六、三〇〇

一時は英國に於けるインゴット産額の殆んど三分の一は砲彈用鋼鐵に當てられたるが尙莫大なる砲彈製造の計畫を満たす能はず、米國及び加奈陀より此種鋼鐵を輸入するの已むなきに至れり。

一九一七年七月以降は船舶及び他の軍需品の需要増加の

爲め砲彈用鋼鐵の産額を減ぜしむるの必要を生じ主として合衆國よりの輸入と當時迄に蓄積せられたる既製砲彈、鍛鐵及び鋼鐵とに憑る事となれり。偶々ハッチ博士曰く「砲彈製造用鋼鐵の品質特に優秀なるべきを主張せる結果は全國を通じて製造せられたる鋼質の品質に一大改良を爲すに至れり」と、果して米國に於ける砲彈用鋼鐵の廢却品の割合は英國のそれに比し遙かに多かりき。斯くの如く莫大なる數量の鋼鐵が砲彈に使用せらるゝや他の使途に充つる鋼鐵の不足を生じ國內に於ける鋼鐵の資源を保存すると同時に將來益す之を増加せしむるの必要急を告ぐるに至りしが、今左に當時の對應策を示さん。

三、輸出制限に依る法

以前にも銑鐵及鋼鐵の輸出に對しては或程度の制限を設けられしが一九一六年四月二十九日に至り此制限を一層嚴格にし兩者をして輸出禁止品中に加へたり、斯くて鋼鐵の總生産は全く之を英國及び其同盟國にて占有し中立國の市場に對しては例へば南米へ若干のレールを輸出せる如く輸出入の差額を調節するの目的を以て特に政府が軍需者を通じて許可を與へたるものゝ外は全然禁止せられたり、此制限の効果は左に示せる表に依つて顯著なるが如く銑鐵及び鋼鐵並に之等の製品の輸出は一九一三年に於ける五百四萬九千噸より一九一八年の百六拾壹萬八千噸に減退するに至れり。

一九一三年より一九一八年に至る鐵、鋼、並に其製品の輸出表

銑鐵(鏡鐵及びマンガン) (鐵其他をも含む)	他の鐵類及び鋼鐵	總額
一九一三年 一、一二五、〇〇〇噸	三、九二四、〇〇〇噸	五、〇四九、〇〇〇噸
一九一四年 七八一、〇〇〇	三、一九一、〇〇〇	三、九七二、〇〇〇
一九一五年 六一一、〇〇〇	二、六三七、〇〇〇	三、二四八、〇〇〇
一九一六年 九一七、〇〇〇	二、四九三、〇〇〇	三、三五六、〇〇〇
一九一七年 七三四、〇〇〇	一、六一一、〇〇〇	二、三四五、〇〇〇
一九一八年 四八三、〇〇〇	一、一三五、〇〇〇	一、六一八、〇〇〇

備考 右表噸數の七割は同盟國に輸出せられたるものなり。

四、鋼鐵製造以外の鐵の使用制限

一九一三年に於ける銑鐵の全生産高に就きて見るに其中參百八拾萬噸即ち約三分の一以上は(鋼鐵に製造せられずして)鍛鐵或は鑄鐵に使用せられ居たるも開戦後は銑鐵をして一層多く鋼鐵製造用に充てしがため、鍛鐵及び鑄鐵の製造を減ぜり、今其製造減退の狀を示せば左の如し。

一九一三年 三、八〇一、五〇〇噸	一九一四年 三、三六九、五〇〇噸
一九一五年 二、七〇一、二〇〇	一九一六年 二、四二三、六〇〇
一九一七年 二、七三八、九〇〇	一九一八年 二、三〇一、八〇〇

五、北米合衆國、加奈陀及び其他より既製軍需品並に鐵材の輸入

左に掲ぐる表は内地産の鐵及び鋼鐵を補ふ必要上北米合衆國、加奈陀及其他より輸入せる程度を示せるものなり。

既製軍需品

北米合衆國	加奈陀	其他	合計
一九一五年 四、五〇〇噸	四、三六〇噸	五〇〇噸	九、三六〇噸

一九一六	四六、五〇〇	三〇、七〇〇	九八、七〇〇
一九一七	四八、六〇〇	三二、一〇〇	八〇、三〇〇
一九一八	五三、〇〇〇	三三、一〇〇	五五、五〇〇

北米合衆國	加奈陀	其他	合計
一九一五年	六三、四〇〇	二五、六〇〇	九九、二〇〇
一九一六	六八、四〇〇	三〇、六〇〇	九九、〇〇〇
一九一七	一四、七九〇	一三、一〇〇	二六、七三〇
一九一八	六〇、五〇〇	五、九〇〇	六六、四〇〇

六、屑鐵使用の増加

銑鐵の不足は(従前に比し)屑鐵の使用の程度を勢ひ増加せしむるに至り、鋼鐵製造者は其生産費用の五割を屑鐵利用の費用に充つべく希望せられたり、戦前に於ける屑鐵利用の割合に關しては正確なる報告の據るべきもの無ければ一般に信ぜらるゝ處を以てすれば鋼鐵生産費の三割を超過せることなかるべく或は其以下なりしこと屢なるべし、斯くて屑鐵使用程度の増進を確めんがため鋼鐵製造者は毎月其月間に使用せる屑鐵の割合を示せる明細表を提出せんことを要求せられたり、而して第一回の報告を受領せる際は屑鐵使用の平均割合は三割四分なりしが此割合は漸次増加せられて遂に四割七分に到達するに至れり、これ實にインゴットの生産高に對して七拾五萬噸の銑鐵節約に等しきものなり、斯る割合を得しめたるは正に砲彈工場よりの鋼鐵削屑の蓄積多かりしに依るものと云ふべく鋼鐵製造者も初めは斯くの如く多量の削屑を利用し盡すことを得ざりしが

銑鐵製造業者を激勵して之れを其熔鑪内に使用せしむる様努めたり而してこの蓄積せられたる削屑の盡くるに及びては砲彈仕上げより日々生ずる屑鋼のみにては不足を感じ遂に内閣の救護者(Salvage Dept. of Ministry)の後援を乞ひて全國に互り放棄せられある屑鐵材を得るに努力せり、其結果屑鐵の需要激増し價格著しく騰貴し爲めに其價格を制限するの必要なるに至れり。

七、銑鐵及び鋼鐵の製造力の増加

(イ) 銑鐵

ハッチ博士の著「一九一四年—一八年の鐵及び鋼鐵工業」(The Iron & Steel Industry 1914-18)に於て本問題を最も詳細に論じたれば之より述べんとする處は主として同書に據れり。
開戦當時に於ては曩きに獨乙及び白耳義製鋼鐵の輸入により鋼鐵製品の下落せるため蓄積せられたる在庫品の利用すべきもの著しく多かりき、之等の蓄積は一九一六年の中頃迄は増加せる鋼鐵の製造に應ずべく充分なりしが、其頃に至り在庫品の尠くして危殆に頻せること明となり。最善の效果を得んがため割當の方法に據るの己むなきに立至れり、此方法はヘマタイト鑛に對しては一九一六年七月ベールシツクに對しては一九一七年五月夫々施行せられ、爾來管理の徹廢せらるゝ迄鋼鐵製造用銑鐵は嚴格に割當られたり然れども如何に注意深く割當てられたりとは云へ、銑鐵の

6

生産は英國の鋼鐵製造力に對し不足なりしを以て一九一六年七月熔鑛爐擴張の第一豫定案計畫せられたり、此案に依れば當時吹入を中止せる四拾壹ヶ所の爐に對し修繕内壁の取替或は増設を計畫し同時に拾個の新熔鑛爐を建造するの豫定にして之等五拾壹個の熔鑛爐の豫測能力は毎週參拾八

萬噸即ち壹ヶ年約貳百萬噸弱なりき、而して此計畫は殆んど等分にヘマタイトとベーシックとに割當てられたり、同年九月迄には之等の爐の中拾六基は既に吹入を爲し壹ヶ年四拾五萬噸の割合を以て製造しつゝありしが其多くはヘマタイトにして更に貳拾貳基の追加熔鑛爐計畫せられ其中拾基は新なるものなり、此將來運轉せらるべき五拾七基の熔鑛爐は年額貳百貳拾五萬噸の生産を豫測せられ之が五割六分はヘマタイトなりき、超へて翌年參月には豫定熔鑛爐の參拾參基は吹入をなし一ヶ年九拾萬噸の割合にて生産せしが其四分の三はヘマタイトなり、而して尙運轉せらるべき計畫の熔鑛爐の數五拾六基となり、年額約貳百六拾貳萬五千噸の生産を見積られ之が五割二分はヘマタイトなりき、如斯其時までには計畫せられたる熔鑛爐の數實に八十九基に達し壹ヶ年參百五拾萬噸の製造能力豫測せられたり、上述の如き萬全の努力にも係はらず、戰時中に於ける銑鐵の生産高が一九一三年のレコードに達せることなかりしは主として船腹と勞力とを得るに困難なりしに基因せり。

船腹の不足は引いてヘマタイトの計畫の一部を破棄する

こととなりベーシックの計畫に集中するの必要を生じ其結果は多くの熔鑛爐及び鋼鐵工場の豫定齟齬し勞力、運輸、燃料其他の材料の需要を増加するに至れり、而してベーシックの生産を大ならしめんがためには國內に於ける燐鐵鑛の生産を増加せしむるの必要起れり。

國內に於ける鐵鑛は實際無盡藏なり、但し鐵工業の斯く迄外國の鑛石に頼れる理由は勿論四割乃至五割七分、平均五割の鐵分を含めるカンバーランド及びウェストモアランドの赤鐵鑛を除けば國內の鑛石の大部分は平均僅に貳割八分の鐵分を含有する燐鐵鑛のみなるが爲なり、之れ明に同量の銑鐵を製造せんがためには遙に多數の熔鑛爐を要することとなり其結果燃料、石灰、耐火物其他も一層多量に要し同時に之に附隨する熟練なる勞働者の必要も増加するに至るべし、加之設備の大々的改造を要し之迄酸性法に使用せる多くの鋼鐵爐の硅酸質の内壁を鹽基性の材料に變更するの必要ありたり。

上述の如く一九一七年三月迄に八拾九基の熔鑛爐設計せられ其の内參拾參基は既に吹入せられしが之れ等熔鑛爐の生産の四分の三は赤鐵鑛なりき。されば内地産の鑛石よりベーシックの生産を増加せしむる爲め同年三月初め内國産鑛石供給委員 (Home Ore Supply Committee) 組織せられ左の目的を以て軍需省内に特別の部門設けられたり。

(1) 西班牙鑛石の輸入減退より生ぜるヘマタイトの不足程

度を補ひ若し能ふべくんば其の程度を超過せしめん爲めベシックの生産を出來得る限り増加せしむると。

(2) ベシックを利用せんが爲め充分なる酸性法鋼鐵熔鑛爐を鹽基性法に變更の設計をなすこと。

調査の結果參拾六基の熔鑛爐が運搬其他の點より見てベシックを製造せしむる様設計し機械を据附くるに適當の地位にある事を發見せられたり、之等の熔鑛爐は毎週約壹萬八千噸の製造力を有せり。加之曩きに承認せられて當時建設中なりし拾六基の新熔鑛爐ありて其の最大生産力は毎週壹萬四千噸に達すべく期待せられたり。

内國產鑛石供給委員會の組織せられたる當時はベシックの一週生産高は四萬八千噸弱なりしが之が最大生産力に達したるは一九一八年五月五日を以て終れる一週間にして六萬五千五百參拾噸を產出せり此増加の内約壹萬噸は新熔鑛爐の運轉に據るものにして殘餘は古き爐の吹入せられたるが爲なり。當初企圖せられたる毎週參萬貳千噸の増加を實現し得ざりしは軍事上の必要より餘儀なくされし例の職工召集其他に基因し充分なる勞力を得るの困難なるに據れるものなり。

左に掲ぐる表は戰時中を通じて銑鐵の生産高を示すものなり。

一九一三年		一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年	
製造割合	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹
銑鐵及鑄鐵	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三	三六〇、八三三
金	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇	三、五五五、〇〇〇
合計	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八	三六四、三八八

拔萃 大戰中に於ける鐵及び鋼鐵業

一九一四年		一九一五年		一九一六年		一九一七年		一九一八年	
製造割合	三	三	三	三	三	三	三	三	三
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
製造割合	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

右表によれば即ちベシックの生産高は一九一四年度の貳百萬噸より一九一八年度には三百萬噸弱即ち約五割の増加を見且つ銑鐵の總生産高に對するベシックの割合は一九一四年度の二割二分に比し一九一八年度は三割三分に増加せり、此の鹽基性鐵の増加は全く鍛鐵及鑄鐵の製造を控へたるが爲にして一九一四年に參百參拾六萬九千噸の製造を見たる鑄鐵及び鍛鐵が一九一八年には貳百參拾萬壹千噸に減少せるを以て見るも明かなり、戰時中一週間の最高製造高を得たるは一九一八年五月五日に終れる一週間にして先きに述べたるが如く同週には鹽基性鐵の製造高六萬五千五百參拾噸なりき。

(ロ) 鋼鐵工場の擴張

鋼鐵の使用を如何に節約するも其の生産高は到底需要を充たす能はざる事明かとなるや鋼鐵工場の大規模の擴張計畫せられ一九一六年三月末迄に一ヶ年更に貳百萬噸のイン

ゴットを供給せし爲めに鋼鐵工場を擴大するの計畫立てられたり、二九一六年サー、ジョン、ハンター鋼鐵生産委員長 (Director of Steel Production) たるや氏は更にヘマタイト百萬噸ベーシック貳百萬噸に對する計畫を認可し増加總噸數を五百萬噸迄に達せしめんとせり。一九一三年に於て得たる生産高七百六拾萬噸なりしを以て此の計畫せられたる新增設完成の上は全國の總生産力壹千貳百萬噸を超過する筈なりき。一九一六年召集せられたる商務院の各部委員が全國の製鋼能力を壹千五百萬噸迄に増加せしむる事を勸告せるは世人の記憶する處なるべし。此の増設を計畫するに當つては熔鑛爐の能力と壓延機の能力との權衡を失はしめざらんが爲め周到の注意を拂ひたるも多くの場合に於ては壓延機的能力著しく増進せられたり。之れ船舶、タンク其他の製造に要する鋼板の需要増加に應ぜんが爲めなり。

左表はハッチ博士の著書より引用せるものなるが一九一六年より一八八間に計畫せられたる製鋼爐數を示せり。

地 方 名	一九一六年	一九七〇—一九八〇年	一九六〇—一八八〇年總計
北 東 岸	三	一	三
スコットランド	一四	一	一五
リンコルンシャー	六	一	七
ミッドランド	二四	一	二五
サウスウエールス	七	一	八
カムバールランド及	一〇	一	一一
ウエストモアランド	二	一	三
合 計	六二	六	六八

上記の計畫を實行せんが爲には鑛石、銑鐵、フェロマンガニース、フェロシリコン、石炭、コークス、石灰、耐火煉瓦及其他の耐火性品の供給が時期を失せず到着するの必要あるを以て鋼鐵局に之れ等の問題を取扱ふべき特別の部を設けたり、而して軍需省の支配の下にあらざる船舶、内國運輸及び勞力等の問題の場合は當該官省が其の行動運轉の模様を絶えず報告せしむる事とせり。内國産鑛石供給委員會の活動は先に銑鐵製造に關聯して述べたるが鋼鐵に於てはベーシックの製造高は同委員會の組織されたる當時の毎週七萬壹千五百噸より一九一八年四月廿七日を以て終れる一週間に於て拾萬四千八百噸の最大生産額に増加したり戰時を通じて鋼鐵インゴット及び鋼鐵鑄物の生産額は次に掲ぐる表によつて明かなり。(單位噸)

年	酸 性 百分率	鹽 基 性 百分率	合 計
一九一三	四八〇、一四	二、〇七三	七六三、八七六
一九一四	四四七、九〇	五七	七五五、一三三
一九一五	五二一、三三	六〇	八五五、〇二五
一九一六	五四六、八三	六二	八九一、七二八
一九一七	五七二、七二	五九	九七二、六五四
一九一八	四九三、二〇六	五三	九五元、四三六

八、鋼鐵の割當

鋼鐵の割當方法には二方面ありて其の一は成可り一般に知られたり、即ち優先證明書によりての供給割當にして、他は餘り知れ渡り居らざれども鋼板シート、セクション其他の要求せられたるものを製造するに最も適せる工場に生

產品を割當つる事なりき、此の優先規則は鋼鐵の供給を戰爭を行ふ上に必要缺くべからざる工業に限らんと目的より出でたるものにして戰爭の遂行上直接重要な仕事に關聯して入用にして且つ海軍省、戰事局、軍需省或は優先證局の許可證を有し其旨を證明するにあらざれば鋼鐵の製造者は決して注文を引請くべからざる様規定せり。總ての工場より最大の生産高を得んが爲と出來得る限り其の生産を各別の生産品に最も適合せる工場より求めんと爲め全國を六區の鋼鐵區域に分ちたり、即ちスコットランド、バース、ミンガム及び其の管區、シェフキールド及其の管區、ランカシャー及びバチエシヤ、北東沿岸、サウスウエールズ之れなり、而して各區域に於て鋼鐵製造業者の委員任命せられ同時に其の地方に於ける總ての工場を熟知せる軍需省の代表者即ち鋼鐵監督官と稱せられたるものゝ任命を見たり。斯くて本部には鐵及び鋼鐵生産品管理官を委員長とし軍需省、海軍省よりの代表者及び各區の委員によつて任命せられたる代表者とを以て組織せる中央委員會なるもの設置せらる。内閣の鋼鐵省は各區域に配置すべき噸數及び種類分けを決し各區の鋼鐵監督官が其の要求せられたる

鋼鐵の注文を何處に割當つるが最も適當なりやに關し豫定案を作製し之を各區の委員に提出して其の意見と助力とを求めたり。

鋼鐵に對する豫算の基礎となるものは噸數なり、蓋し英國に於て生産せらるる銑鐵の殆ど半は輸入せる鑛石に依るを以てなり、鐵鑛石の輸入に割當てらるべき噸數は戰時内閣の船腹優先委員 (Shipping Tonnage priority Committee) によりて決定せられ鐵及び鋼鐵生産管理官は之れによりて其の豫定案を編成せり。管理官は初めに内國產鑛石の豫想生産高を見積り次に内國產及び輸入鑛石を銑鐵の量に換算し鑄鐵及び鍛鐵製造に要せらるべき銑鐵を控除し斯くて殘りの銑鐵を鋼鐵インゴット製造に當て、換算せり、次に掲ぐる表は現に一九一八年の秋サー、ウィリアム、ジョーンスによりて作製せられたるものにして西班牙鑛石六百萬噸、スカンジネビア鑛石三十萬噸及び米國よりのベリシツク銑鐵五十萬噸を輸入すべき推定に據れり。一九一九年に於ける生産高一千〇十一萬五千七百噸に對する豫算を建てたるものなり。(單位噸)

輸入鑛石		赤鐵鑛及び他の材料		銑鐵		鑄物其他	
西班牙及び地中海	六〇〇〇〇〇〇	材料	七五二〇〇〇	ヘマタイト	三、七六六、〇〇〇	鋼物其他	四八、〇〇〇
スカンジネビア	二〇〇〇〇〇〇	内國產鐵鑛	二、四四三、〇〇〇	銑鐵	一、九二〇、〇〇〇	鋼鐵製造	三、〇八〇、〇〇〇
西沿岸	一、三〇〇、〇〇〇	輸入鐵鑛	一、四〇〇、〇〇〇	鑄基性銑鐵	三、〇〇〇、〇〇〇	酸性インゴット	五、三三八、〇〇〇
内地鑛石	一、四四三、〇〇〇	合計	二、五八三、〇〇〇	(輸入せる者)	五、〇〇〇、〇〇〇	鑄基性インゴット	四、七九七、〇〇〇
他の材料鐵滓スケール等	一、五二二、〇〇〇	鋼鐵製造に使用されたる鐵石	六〇〇、〇〇〇	鑄造用及び鍛冶用銑鐵	二、二五〇、〇〇〇	インゴット合計	一〇、二二五、〇〇〇
合計	三、九九二、〇〇〇						

上記見積の實現はもとより上記輸入鐵石の噸數を完全に受領し且つ其の鐵石を悉く製鍊し依つて生ぜる銑鐵を鋼鐵に製造せしむるに必要な充分の勞力と燃料とが好都合に供給し得ると否とに據る事は注意を要す。

インゴットの一定の生産高より得べき鋼鐵仕上器（プレート、レール、アングル等）の噸數は七割五分と推定せられたるが此の割合の確めらるゝや鋼鐵割當委員（鋼鐵生産管理官「委員長」と海軍省、戰時局及軍需省の重なる消費局の代表者とより組織せらる）會合して豫期の鋼鐵生産を各部に割當てたり。斯くて國內一般取引或は諸工場設備の維持等の爲に残されたる鋼鐵の量は著しく減少せられたり、然も尙各軍事局への供給は十分なりしには非ずして之を加減したるに過ぎず。鋼鐵に對する總ての注文は許可證及び優先證書を具備せざるべからざるの規定存するを以て各消費局に發送せられたる鋼鐵の噸數は容易に之を知り得たり。

鋼鐵製造者は直接契約をなすの權利を有するか若しくは優先省の許可を有する各局の仕事に對し一週間内に發送せる噸數を鋼鐵の種類別により毎週鐵、鋼鐵生産委員へ報告する事を要求せられたり而して之れ等の報告は之れを表に作り鋼鐵局にて其の割當の遵守せられたる程度を知るに便ならしめたり。此の割當と發送との割合を示したる表は興味あるものにして常に大臣に提出する報告書中に掲げたるものなれば左に同じくサー、ウィリアム、ジョーンズの指圖により作製せられたる一例を示さん。

一九一八年に於ける鋼鐵製造者よりの發送高

一週間の平均噸數

發送高

一九一八年
豫定せられ
たる同年一
月より六月
迄の割合

	一月	二月	三月	四月	五月	六月
海軍省	三七〇七六	二七〇五七	三六二七〇	三二、三〇	三、五九	三、四四
戰時局	一〇〇六六	一一、二〇三	一一、四〇一	一二、二二三	一〇、五七	一〇、八五四
軍需省						
爆發物	五、五八	三、五八	四、一八	四、三三	四、四四	五、〇九
大砲	二、七六〇	一、八五八	一、一七五	一、八二四	二、三三四	二、四六
機關砲	九〇〇	四、八	四、三五	五、九一	五、六五	七、九
重砲	九、四	九、六二	一、〇二九	八、〇七	八、一	九、八
機械	三、四八〇	一、〇三〇	一、四六一	一、七三三	二、一〇四	二、九八三
機械的運輸	一、三六六	一、三八五	一、三三	一、六六	一、六三	一、五九
航空機	三、五八	二、四六	二、九六九	三、二六五	三、四二	三、七八
鋼鐵工場	一、四一八	二、二三五	二、五〇四	二、六〇六	二、一八三	二、〇〇七
工場建築	一、〇三〇	一、二二三	一、三三	一、四〇	一、一八	一、九三
機械器具	一、一七六	九、二	一、二〇八	一、三三	一、二七	一、三三
及起重機	四、五三六	二、九三	四、六三	六、一四二	六、九七五	五、八二六
鐵道、英本國	四、九二四	四、四三八	四、九七三	五、一三	五、三三	四、四八
同海外	四、七六	四、五	四、六	八、六	八、六	八、〇七
電力供給	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一	三、一
其	二、六二七	三、五六一	二、八二八	二、六七九	三、三〇三	三、三〇三
軍需省合計	四、九二	四、六	四、六	五、五	六、〇	五、〇五
印度省	二、三九	二、三九	二、三九	二、三九	二、三九	二、三九
政府の他各局	一、九〇	一、八二〇	一、五七〇	一、五三三	一、五二二	一、五九七
及優先證局						
聯合國						
佛蘭西	六、九四〇	六、二六	六、一四七	六、八〇六	六、三二七	六、四一
以太利	一、〇三	一、一五〇	一、四三	一、〇三	六、六一	八、六五
其他	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

砲彈用鋼鐵
大英國

陸上用	一五、三〇〇	一八、六四〇	一八、六〇一	一六、三〇六	一五、五三三	一八、九〇六
海軍用	二、四八六	一、七三九	一、七〇七	一、四九〇	一、四一三	一、八六六
軟鋼用	四、〇三三	三、七〇一	三、三三〇	三、三三二	三、〇七七	二、七六八
佛蘭西	九〇〇	三、七六八	一、九〇三	六、一六	三、六〇	一、七三
以太利	三、三六〇	六、五三	一、七三四	一、九一二	一、〇九五	二、七二
白耳義	—	二、四	—	四、六	—	—
他の聯合國	—	一、三	—	—	—	—
管	七、六七三	一、〇六六	一、三三二	一、四九六	一、七七一	一、四四〇
筒	四、〇六六	三、六〇九	四、六六九	四、六六九	四、八七二	五、二〇〇
總計	一五、八八〇	二二、一四六	一、四四六	一、三七八	一、四八三	一、三九二

右表に就きて見るに海軍省は一九一八年の上半期に於ては毎週參萬七千噸を割當てられたるも實際之を得たるは參月のみにして又同期間を通じて參千五百噸をタンクに割當てたるが六月に至り初めて此噸數を得たるのみ（表中機械——とあり）此割當高と發送高との相違の理由を説明せん爲には各局省の豫定案を研究するを要し斯る小冊子のよく成し得る所に非ず、加之四圍の狀況の變化に連れ割當も變更せられたり、右表の第一行に示せるは同年の初めに作製せられたるものにして最初の六ヶ月の經過せざる中より既に此割當を加減して仕事を遂行したり。（未完）

◎琉球に大燐礦發見

八幡製鐵所が鑄鐵に混入するため使用する燐礦は一箇年に頗る多額に上るが内地では其の生産が皆無なため南洋諸島から取寄せて居るが自給自足の見地からして國防上憂ふべき一材料と見做されて居た。所て最近三井の手で沖繩縣八重山列島の無人島（大正島）で千五百萬噸と云ふ莫大の埋藏量を有する一大燐礦區を發見採掘を始めて製鐵所に買上方を申出て來たので、同所檢定課で其性質を檢定中であつたが南洋産のものが十五パーセントなるに對し、二十八パーセントと云ふ多額の含燐量を有する良礦だと判明したので、近々從來の南洋産のものをやめて之を購入して使用する事になつたらしいが、右の無人島の燐礦は一年昨鹿兒島縣から出魚中の漁夫が遭難して漂泊した者の中に燐礦採掘の經驗あるものが發見したもので、爾來試掘願を縣廳に出したが海圖にもない無名島なのでそんな島はないと冷淡に取上げられず、廻り廻つた末本年福岡礦務署で採掘を許可されたものを三井が買收して採掘を初めたものだ。尙長崎縣五島列島でも最近燐礦區が發見されて試掘を願出したものがある。